

第1回策定委員会 各委員からの意見概要（カテゴリ別）

【子ども】

- ・「子どものために子どもとともに」という考え方が大切である。
- ・子どもなりの意見を受け止めることが必要である。
- ・子どもがどのように育ってほしいのかを重視したい。
- ・生まれた地域の学校に通い、育った地域を好きになるというプロセスを大切にしたい。
- ・三次に戻ってくるような子どもを育てることが大切である。
- ・子どもが幸せに生きていく環境は親や地域がつくっていくべきと考える。
- ・自立支援と自己決定を支援する必要がある。
- ・学校・地域・家庭等のいろいろな場面での子どもの学びや発達を理解する必要がある。
- ・子ども一人ひとりの存在を実感できる、お互いの存在を感じる学校づくりが大切である。

【地域】

- ・地域の人＝地元住民＋市外から来ている人という考え方は必要ではないか。
- ・いろいろな地域から来てもらえる、選ばれるコミュニティスクールづくりを進めたい。
- ・高齢化が進む地域はコミュニティスクールの運営は難しくなっている。
- ・今ある地域のコミュニティの良いところをどう残していくかは大事な視点である。
- ・地域と学校のお互いが自立し、知り合える関係性が大切である。
- ・市の関係部署（まちづくり交通課等）とも連携し、学校がなくなっても活気ある地域にする意識が大切である。
- ・周りの地域から三次市へ呼び込むのに、SNS や YouTube 等を活用するべきである。

【教育内容】

- ・一人ひとりの幸せの感じ方が違う中で、それをどう教育の内容と合致させていくかを検討する必要がある。
- ・大規模校・小規模校両方のメリットやデメリットを共有した上で議論するべきである。
- ・今住んでいる（過疎）地域をどう盛り上げるかを子どもと共に考えたい。
- ・中学校の部活動や教育活動は今行っているものをできる限り続けたいという思いもある。
- ・他の学校との合同での特別支援学級の授業ができればいい。
- ・小規模校は個人に合わせて細かな指導ができ、発表の機会も多く、成長できると感じている。
- ・完全複式校以外にも中規模であってもいろいろな分野の意見を聴く必要がある。
- ・リモートでの研修や授業などのメリットを活かすことが必要である。

【協議の方法・内容等】

- ・三次市全体の小中学校の教育をどうしていくか、長いスパンで考えることが必要である。
- ・持続可能な学校づくりとはどういうことなのかについて、検討したい。
- ・小学校と中学校を一緒に考えるのではなく、それぞれの発達段階に応じたあり方を議論すべきではないか。
- ・学校だけの視点、地域だけの視点ではなく、三次市全体で考えていくことではないか。
- ・企業等の産業経済界も巻き込んで考えることが必要である。
- ・教職員が定時で帰れる環境につながる視点も必要である。